

事務事業評価シート

記載年月	令和元年8月
対象年度	平成30年度

1 事務事業の概要

事務事業名	自然保護啓発普及事業			事務事業コード	20270100
概要	自然保護や緑化への意識高揚を図るため、環境啓発ポスターコンクールなどを開催する。				
総合計画	基本施策	1	自然・生態系の保護と回復	主管部課名	生活環境部 環境政策課
	施策	27	自然・生態系の保護と回復	事業類型	任意事業
	事業種別	主要な事務事業	事業開始年度	～	見直しの裁量
根拠法令等	府中市自然環境の保全及び育成に関する条例				
市関連事業					
対象	市民を中心とする方々（市内在住、在学の小学生・中学生を中心とする。「蓮を観る会」は市外からの一般の方を含む。）				
実施の背景	市民の環境に対する理解を深めるため、環境啓発ポスターコンクールなどを通じて、自然保護意識の啓発・普及を行うため実施する。				
事業目標	環境啓発ポスターコンクールなどへの参加を通じて、市内の小中学生を中心とした多くの児童、生徒及び一般の方々が、自然環境の保全や緑化などに対する意識啓発ができるように努める。				
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ▼環境啓発ポスターコンクールとして、緑化推進、まち美化及び地球温暖化防止をよびかけることをテーマとした、環境を大切にしたい意欲が高まることを強調した作品を募集し、市が依頼する審査委員が審査し、入選作品を選定する。 ▼府中市にゆかりのある大賀蓮をはじめ30種類の蓮が植えている郷土の森公園修景池において、花蓮の観賞や講師による花蓮の解説を行う「蓮を観る会」を開催する。 ▼市が主催する環境まつりにおいて、鳥の巣箱づくりを通じて身近な野鳥に関心を持ち、自然を大切にしたい心を育てるため、鳥の巣箱作り講習会を実施する。 				

2 事業計画・評価

H29年度実績 (Do)	H29年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
<ul style="list-style-type: none"> ▼環境啓発ポスターコンクールの実施 ▼府中環境まつりにおける環境啓発イベントの実施 ▼自然環境学習会の実施 ▼多摩川ツバメの集団ねぐら保全活動支援 ▼第57回蓮を観る会を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ▼環境啓発ポスターコンクールを通じて、自然環境の保全に対する市民意識の啓発に努めることができた。 ▼府中環境まつりにおいて、鳥の巣箱づくりや木の実細工を行い、自然保護や自然環境の啓発に取り組んだ。 ▼身近な自然環境について、市民に興味や関心を持ってもらうため、自然環境学習会を実施し、自然保護意識の普及啓発に努めた。 	

新規・レベルアップ
 継続
 見直し
 廃止
 H29年度評価に基づく見直し (Action)

H30年度の具体的な取組 (Plan)	H30年度の方向性 (Plan)
<ul style="list-style-type: none"> ▼環境啓発ポスターコンクールの実施 ▼府中環境まつりにおける環境啓発イベントの実施 ▼多摩川ツバメの集団ねぐら保全活動支援 ▼第58回蓮を観る会を実施 	ポスターコンクールで入選した作品を緑化意識の高揚を図る広告物として活用していく。 環境啓発イベントを開催することで、自然環境や自然保護意識の啓発に努めていく。

H30年度実績 (Do)	H30年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
<ul style="list-style-type: none"> ▼環境啓発ポスターコンクールの実施 ▼府中環境まつりにおける環境啓発イベントの実施 ▼多摩川ツバメの集団ねぐら保全活動支援 ▼第58回蓮を観る会を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ▼環境啓発ポスターコンクールを通じて、自然環境の保全に対する市民意識の啓発に努めることができた。 ▼府中環境まつりにおいて、鳥の巣箱作りや木の実細工作りを行い、自然保護意識の啓発に取り組んだ。 ▼多摩川ツバメの集団ねぐら保全活動を市民団体と連携して実施し、生息環境の保全を図った。 	

新規・レベルアップ
 継続
 見直し
 廃止
 H30年度評価に基づく見直し (Action)

H31年度の具体的な取組 (Plan)	H31年度の方向性 (Plan)
<ul style="list-style-type: none"> ▼環境啓発ポスターコンクールの実施 ▼府中環境まつりにおける環境啓発イベントの実施 ▼多摩川ツバメの集団ねぐら保全活動支援 	ポスターコンクール入選作品について、自然保護意識の啓発普及における一層の活用を検討していく。 自然保護意識の普及促進のため、環境啓発イベントを継続して開催していく。 蓮を観る会については平成30年度をもって終了とした。

令和2年度における事業の位置付け		
A 重点化・拡大して継続	C	蓮を観る会については、近年蓮の栽培状況が好ましくなく、運営スタッフの高齢化などもあり、開催に支障があると判断されるため中止とした。 その他の取組みについては市民の自然保護意識の啓発や環境保全活動の普及を図ることができたと思われるため、継続して実施していく。
B 現状のまま継続		
C 見直して継続		
D 休止・廃止等		
	1	

3 指標実績の推移・現状分析

指標名	基準値 (単位)	事業推移				目標値・ 目標年度	指標の分析	
		H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度			
ポスターコンクール応募者数	200	計画値	当初値	200	200	200	200	ポスターコンクールは、従来からの応募期間を変更し、学生が夏休みを活用して制作できる期間設定としたことにより、前年度より応募者数が増加した。運を観る会については、平成30年度をもって事業を終了したため、平成31年度以降は計画値の記載は行わない。
			補正值	-	-	-	-	
	実績	実績	111	-	-	-	-	
運を観る会参加者数	200	計画値	当初値	200	-	-	200	
			補正值	-	-	-	-	
	実績	実績	200	-	-	-	-	

※ 当初値：指標設定当初の計画値、補正值：現時点での適正な計画値（当初値から補正した値）

現状分析	3	2	1	
国や都、民間ではなく、市が主体的に実施すべき事業である。	実施しなければならない	実施すべきである	実施する必要性は低い	2
実施に当たって民間活力等を活用する余地がある事業である。	余地がない	余地がある	多くの余地がある	2
類似事業はなく、統合など再構築した中では実施できない。	実施不可能である	検討の余地がある	実施可能である	2
事業実施の成果を何かしらの形で把握している。	把握している	把握不可能である	把握していない	3
受益者に対して求めている負担は適正である。	適正である	見直しの余地がある	適正ではない	3
多摩地域の他市と比較して充実している事業である。	他市より充実している	他市と同程度	他市の方が充実している	2

4 事業費・人件費等の推移

(単位：円、人)

	H29年度	H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度
(事業費)						
当初予算額	768,000	623,000	584,000	0	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
一般財源	768,000	623,000	584,000	0	0	0
予算現額	768,000	623,000	0	0	0	0
決算額	630,209	615,944	0	0	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
一般財源	630,209	615,944	0	0	0	0
執行率	82.1%	98.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
(人件費)						
職員数	0.61	0.61				
職員人件費	4,685,791	4,793,437				
嘱託員数	0	0				
嘱託員人件費	0	0				
(間接経費)						
間接経費	44,312	40,689				
総コスト	5,360,312	5,450,070	0	0	0	0

5 これまでの取組及び今後の展開

これまでの主な取組と成果
環境啓発ポスターコンクールの開催を通じて、市内の小中学生を中心に多くの児童、生徒の参加により、自然環境の保全に対する市民意識の啓発に努めることができた。
今後の課題・展開（未達成の課題・具体的な方策等）
市民に潤いと安らぎを与える緑を将来にわたって保護するため、次世代を担う子ども達を中心に市民意識の高揚を高めるため、ポスターコンクールを充実させる必要がある。応募期間の変更で一定の改善を図れたがまだ不十分であるため、さらに多数の応募を得られるよう対応策を検討していく。

6 構成事業一覧

(単位：円)

No.	会計	款	項	目	事業 コード	予算事業名	H30年度		H31年度 当初予算額
							当初予算額	決算額	
1	01	40	15	25	1118000	自然保護啓発普及費	408,000	401,974	584,000
2	01	40	15	25	1119000	花蓮保存普及費	215,000	213,970	
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									
合 計							623,000	615,944	584,000

事務事業評価シート

記載年月	令和元年8月
対象年度	平成30年度

1 事務事業の概要

事務事業名	自然環境調査員活動事業			事務事業コード	20270200
概要	身近な自然環境を保全するにあたり、市内の動植物の生息状況及びその他の自然環境を調査する。				
総合計画	基本施策	1	自然・生態系の保護と回復	主管部課名	生活環境部 環境政策課
	施策	27	自然・生態系の保護と回復	事業類型	任意事業
	事業種別	主要な事務事業	事業開始年度	～	見直しの裁量
根拠法令等	府中市自然環境調査員会議設置要綱				
市関連事業					
対象	公募市民及び市民団体の代表				
実施の背景	市民、民間団体、市などが連携して自然環境を保護し、生物多様性を保全するための仕組みづくりを進めていくため。				
事業目標	市内の自然環境を保全するにあたり、市内の動植物の生息状況及びその他の自然環境の調査を行う市民等の活動を支援する。				
事業内容	市内の動植物の生息状況及びその他の自然環境を把握するため、自然保護団体や公募市民で構成する自然環境調査員による動植物の生息調査を実施する。 また、だれもが気軽に参加できる体験型イベントや、自然観察会及び学習会を実施する。				

2 事業計画・評価

H29年度実績 (Do)	H29年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
<ul style="list-style-type: none"> ▼自然環境調査員会議学習会の開催 ▼小学校の総合的学習の時間の支援 ▼自然観察ウォーキングツアーの実施 ▼緑化講習会の企画・運営 ▼府中環境まつり（自然体験コーナー）の企画・運営 ▼ホタル飼育支援 ▼市内の動植物の生息状況その他の自然環境の調査の実施 	<p>自然保護意識の普及啓発することを目的に、ウォーキングツアーや市民が気軽に参加できるような自然観察会や学習会を実施する。 ホタル飼育支援については、「府中ホタルの会」に委託しており、ホタルの生息できる環境に適した管理手法や情報を収集し、ホタルが生息できる環境にあるか検証していく。</p>	

新規・レベルアップ
 継続
 見直し
 廃止
 H29年度評価に基づく見直し (Action)

H30年度の具体的な取組 (Plan)	H30年度の方向性 (Plan)
<ul style="list-style-type: none"> ▼市内の動植物の生息状況その他の自然環境の調査の実施 ▼自然環境調査員会議学習会の開催 ▼小学校の総合的学習の時間の支援 ▼自然観察ウォーキングツアーの実施 ▼緑化講習会の企画・運営 ▼府中環境まつり（自然体験コーナー）の企画・運営 ▼自然環境調査員会議委員研修の実施 	<p>自然環境調査員による動植物の生息調査を実施し、自然環境の把握に努めた。自然保護意識の普及啓発を目的に、自然観察ウォーキングツアーや緑化講習会を実施して、自然保護意識の啓発に努めていく。</p>

H30年度実績 (Do)	H30年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
<ul style="list-style-type: none"> ▼市内の動植物の生息状況その他の自然環境の調査の実施 ▼自然環境調査員会議学習会の開催 ▼小学校の総合的学習の時間の支援 ▼自然観察ウォーキングツアーの実施 ▼緑化講習会の企画・運営 ▼府中環境まつり（自然体験コーナー）の企画・運営 ▼自然環境調査員会議委員研修の実施 	<p>自然環境調査員による動植物生息状況調査を継続的に実施し、市内の生物多様性情報の収集・整理を推進することができた。 ウォーキングツアーや自然観察会など、市民が気軽に参加できる自然保護意識の啓発イベントを実施し、多数の参加者を得たほか、環境まつりのイベント運営や小学校の総合的な学習の時間の支援を通じて、子どもたちが自然保護の大切さを学ぶ機会を提供することができた。</p>	

新規・レベルアップ
 継続
 見直し
 廃止
 H30年度評価に基づく見直し (Action)

H31年度の具体的な取組 (Plan)	H31年度の方向性 (Plan)
<ul style="list-style-type: none"> ▼市内の動植物の生息状況その他の自然環境の調査の実施 ▼自然環境調査員会議委員学習会・委員研修の開催 ▼小学校の総合的な学習の時間の支援 ▼自然観察ウォーキングツアーの実施 ▼緑化講習会の企画・運営 ▼府中環境まつり（自然体験コーナー）の企画・運営 ▼ホタル飼育事業 	<p>自然環境調査員による動植物調査は、実施方法の効率化、委員のスキルアップなどを図りながら、継続して実施していく。 各種の自然保護意識啓発イベントについても、幅広い年齢層の市民により関心をもってもらえるような運営方法を検討しつつ展開していく。</p>

令和 2年度における事業の位置付け		
A 重点化・拡大して継続	B	調査の実施方法やイベントの内容など細部についてはより効果的、効率的な方法を検討しながら実施していくが、基本的な取組み方針については継続していくことが望ましいと思われる。
B 現状のまま継続		
C 見直して継続		
D 休止・廃止等		
	1	

3 指標実績の推移・現状分析

指標名	基準値 (単位)	事業推移				目標値・ 目標年度	指標の分析
		H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度		
自然観察会や学習会の開催 (参加人数)	50	計画 当初値	50	50	50	50	調査員による動植物生息調査を継続的に実施し、自然保護意識の普及・啓発することを目的に、ウォーキングツアーや自然観察会を実施した。平成31年度より委員向け学習会の参加者を除いた一般参加者の数値とした。また、環境まつり自然体験コーナーの参加者数(付き添いを含む)を新たに指標に設定した。
		計画 補正值	-	-	-	-	
	実績	65	-	-	-	-	
環境まつり自然体験コーナーの企画・運営(参加人数)	150	計画 当初値	150	150	150	150	
		計画 補正值	-	-	-	-	
	実績	155	-	-	-	-	

※ 当初値：指標設定当初の計画値、補正值：現時点での適正な計画値(当初値から補正した値)

現状分析	3	2	1	
国や都、民間ではなく、市が主体的に実施すべき事業である。	実施しなければならない	実施すべきである	実施する必要は低い	2
実施に当たって民間活力等を活用する余地がある事業である。	余地がない	余地がある	多くの余地がある	2
類似事業はなく、統合など再構築した中では実施できない。	実施不可能である	検討の余地がある	実施可能である	3
事業実施の成果を何かしらの形で把握している。	把握している	把握不可能である	把握していない	3
受益者に対して求めている負担は適正である。	適正である	見直しの余地がある	適正ではない	3
多摩地域の他市と比較して充実している事業である。	他市より充実している	他市と同程度	他市の方が充実している	2

4 事業費・人件費等の推移

(単位：円、人)

	H29年度	H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度
(事業費)						
当初予算額	1,342,000	2,176,000	1,243,000	0	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
一般財源	1,342,000	2,176,000	1,243,000	0	0	0
予算現額	1,342,000	2,176,000	0	0	0	0
決算額	1,149,882	2,005,001	0	0	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
一般財源	1,149,882	2,005,001	0	0	0	0
執行率	85.7%	92.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
(人件費)						
職員数	1.12	1.12				
職員人件費	8,603,419	8,801,065				
嘱託員数	0	0				
嘱託員人件費	0	0				
(間接経費)						
間接経費	81,359	74,709				
総コスト	9,834,660	10,880,775	0	0	0	0

5 これまでの取組及び今後の展開

これまでの主な取組と成果
自然環境調査員が自然環境の保全の推進を図るため、市内の動植物の生息状況その他の自然環境の把握に努めるとともに、自然環境の保全のための普及啓発を行った。継続的な取組みにより市内動植物の生物多様性情報の集約を進め、また市民に対する自然保護意識の普及啓発を促進してきた。同時に、調査員を対象とした研修や学習会を開催し、生物多様性の保全に関する知識や理解を深め、取組みの一層の効率化を図った。
今後の課題・展開(未達成の課題・具体的な方策等)
引き続き調査員の専門知識の向上が不可欠である。また調査員の高齢化が進み、世代交代が進んでいないため、継続的な取組みの維持のため、将来的な実施体制について具体的な対策を検討する必要がある。

6 構成事業一覧

(単位：円)

行	会計	款	項	目	事業 コード	予算事業名	H30年度		H31年度 当初予算額
							当初予算額	決算額	
1	01	40	15	25	1120500	自然環境調査員活動費	2,176,000	2,005,001	1,243,000
2									
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									
合 計							2,176,000	2,005,001	1,243,000

事務事業評価シート

記載年月	令和元年8月
対象年度	平成30年度

1 事務事業の概要

事務事業名	自然環境保全活動促進事業			事務事業コード	20270300
概要	多摩川など水辺を活用した自然環境学習や体験学習を実施する。市民の緑化活動を支援するための事業を実施する。				
総合計画	基本施策	1	自然・生態系の保護と回復	主管部課名	生活環境部 環境政策課
	施策	27	自然・生態系の保護と回復	事業類型	任意事業
	事業種別	その他の事務事業	事業開始年度	～	見直しの裁量
根拠法令等	府中自然環境の保全に及び育成に関する条例				
市関連事業					
対象	市民（小学生と保護者ほか）				
実施の背景	身近な自然である多摩川において、子ども達が川遊びや、生き物、植物などの観察を通じて、楽しみながら学ぶことにより、自然とふれあう機会を提供し、貴重な自然を大切に作る意識を作りあげていく。				
事業目標	多摩川など水辺を活用した自然環境学習や体験活動を企画実施し、また小学校での総合的学習の時間に対する支援を行う。				
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ▼多摩川の持つ豊かな自然を活用し、川遊びや生き物や植物を観察する事業を「府中水辺の楽校」として実施し、イベントの内容は毎年異なるが、「多摩川ガサガサ魚とり」、「多摩川サマースクール」等を実施している。 ▼小学校の総合的学習において、環境分野を活動内容とする場合に活動の支援 ▼府中市の緑を増やすための「緑の募金事業」の実施 ▼市民が収集した落ち葉を堆肥で返す「落ち葉の銀行」の実施 				

2 事業計画・評価

H29年度実績 (Do)	H29年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
<ul style="list-style-type: none"> ▼府中水辺の楽校（イベント7回） ▼小学校総合的学習の時間の支援 ▼緑の募金事業の実施 ▼落ち葉の銀行事業の実施 ▼緑化講習会の実施 	府中水辺の学校の年間イベントを通じて、多摩川の自然環境について理解を深め、身近で貴重な自然環境に触れ合う機会を提供できた。また小学校の総合学習の時間の支援も行った。	

新規・レベルアップ
 継続
 見直し
 廃止
 H29年度評価に基づく見直し (Action)

H30年度の具体的な取組 (Plan)	H30年度の方向性 (Plan)
<ul style="list-style-type: none"> ▼府中水辺の楽校事業の実施 ▼緑の募金事業の実施 ▼落ち葉の銀行事業の実施 ▼小学校総合的学習の時間の支援 ▼緑化講習会の実施 	事業内容を維持しつつ、自主的な活動が出来るよう事業を進めていく必要がある。落ち葉の銀行については、公園内の落葉を回収し堆肥化することで、緑のリサイクルを図っていく。

H30年度実績 (Do)	H30年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
<ul style="list-style-type: none"> ▼府中水辺の楽校事業の実施（イベント6回） ▼小学校総合的学習の時間の支援 ▼緑の募金事業の実施 ▼落ち葉の銀行事業の実施 	府中水辺の楽校のイベント及び小学校の総合的学習の時間の支援を通じて、多くの子どもたちに多摩川の自然環境について理解を深め、身近で貴重な自然環境に触れ合う機会を提供することができた。	

新規・レベルアップ
 継続
 見直し
 廃止
 H30年度評価に基づく見直し (Action)

H31年度の具体的な取組 (Plan)	H31年度の方向性 (Plan)
<ul style="list-style-type: none"> ▼府中水辺の楽校事業の実施 ▼小学校総合的学習の時間の支援 ▼緑の募金事業の実施 ▼落ち葉の銀行事業の実施 	水辺の楽校は身近な自然の存在に触れ合う貴重な機会となっており、より多くの子どもたちに体験してもらうよう継続して実施していく。

令和 2年度における事業の位置付け		
A 重点化・拡大して継続	B	水辺の楽校については身近な自然に触れ合う貴重な機会となっており、参加者にも好評を得ているため、引き続き継続して実施していくことが望ましいと思われる。一方で、運営スタッフの高齢化や減少、活動場所の確保等、将来的な問題も抱えており、継続実施が可能となるよう運営方法についての検討も併行して進めていく。
B 現状のまま継続		
C 見直して継続		
D 休止・廃止等		
	3	

3 指標実績の推移・現状分析

指標名	基準値 (単位)	事業推移				目標値・ 目標年度	指標の分析
		H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度		
府中水辺の楽校への参加児童	1,000	計画値 当初値	1,000	1,000	1,000	1,000	多くの子ども達に自然体験や自然環境学習の機会を提供している。総合的な学習の時間の支援対象校が減少しており、イベントの中止等の影響を受けた平成29年度から参加人数があまり増加していない。
		計画値 補正值	-	-	-	-	
	実績	1,087	-	-	-	-	
-	-	計画値 当初値	-	-	-	-	
		計画値 補正值	-	-	-	-	
-	-	実績	-	-	-	-	

※ 当初値：指標設定当初の計画値、補正值：現時点での適正な計画値（当初値から補正した値）

現状分析	3	2	1	
国や都、民間ではなく、市が主体的に実施すべき事業である。	実施しなければならない	実施するべきである	実施する必要は低い	2
実施に当たって民間活力等を活用する余地がある事業である。	余地がない	余地がある	多くの余地がある	2
類似事業はなく、統合など再構築した中では実施できない。	実施不可能である	検討の余地がある	実施可能である	3
事業実施の成果を何かしらの形で把握している。	把握している	把握不可能である	把握していない	3
受益者に対して求めている負担は適正である。	適正である	見直しの余地がある	適正ではない	3
多摩地域の他市と比較して充実している事業である。	他市より充実している	他市と同程度	他市の方が充実している	2

4 事業費・人件費等の推移

(単位：円、人)

	H29年度	H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度
(事業費)						
当初予算額	2,092,000	2,090,000	2,156,000	0	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	506,000	506,000	506,000	0	0	0
一般財源	1,586,000	1,584,000	1,650,000	0	0	0
予算現額	2,092,000	2,090,000	0	0	0	0
決算額	2,076,844	2,088,457	0	0	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	470,700	558,300	0	0	0	0
一般財源	1,606,144	1,530,157	0	0	0	0
執行率	99.3%	99.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
(人件費)						
職員数	1.12	1.17				
職員人件費	8,603,419	9,193,970				
嘱託員数	0	0				
嘱託員人件費	0	0				
(間接経費)						
間接経費	81,359	78,044				
総コスト	10,761,622	11,360,471	0	0	0	0

5 これまでの取組及び今後の展開

これまでの主な取組と成果
子ども達が多摩川で遊びながら、水辺の安全ルールを身に付け、日頃できない自然とのふれあい体験活動を行った。年間イベントを通して学んだことを2月の展示会で作品を展示し、多摩川の自然環境について一層の理解を深め、身近で貴重な自然環境を守っていく大切さを学んだ。また、小学校の総合的な学習の時間の支援も行った。 緑の募金活動により、学校等に花の種子、球根を配布し、身近な緑化活動を推進している。 落ち葉の銀行に団体登録し、公園内の落ち葉を回収し堆肥化することで、緑のリサイクルを図った。
今後の課題・展開（未達成の課題・具体的な方策等）
事業内容を維持しつつ、自主的な活動ができるよう事業を進めていきたい。 府中水辺の楽校の運営スタッフの高齢化や減少、活動場所の確保等、将来的な問題も抱えており、継続実施が可能となるよう運営方法についての検討も併行して進めていく。

6 構成事業一覧

(単位：円)

No.	会計	款	項	目	事業 コード	予算事業名	H30年度		H31年度 当初予算額
							当初予算額	決算額	
1	01	40	15	25	1121000	緑と花いっぱい運動推進事業費	1,440,000	1,438,457	1,506,000
2	01	40	15	25	1125000	水辺の楽校推進事業費	650,000	650,000	650,000
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									
合 計							2,090,000	2,088,457	2,156,000

事務事業評価シート

記載年月	令和元年8月
対象年度	平成30年度

1 事務事業の概要

事務事業名	生物多様性地域戦略推進事業			事務事業コード	20270400
概要	市内における生物多様性の保全及び持続可能な利用に関する施策を総合的かつ計画的に推進する。				
総合計画	基本施策	1	自然・生態系の保護と回復	主管部課名	生活環境部 環境政策課
	施策	27	自然・生態系の保護と回復	事業類型	法定事業・任意事業混在
	事業種別	その他の事務事業	事業開始年度	平成26年度～	見直しの裁量
根拠法令等	生物多様性基本法				
市関連事業					
対象	生物多様性地域戦略の策定				
実施の背景	自然共生社会の実現を目指し、地域における多様な主体が連携して、生物多様性の保全と持続可能な利用に向けた具体的な取組みを行うことを促進し、良好な自然環境の保護・回復に寄与する。				
事業目標	豊かな自然の恵みを継続的に受けることによって、自然と共生する社会の実現を目指します。				
事業内容	府中市生物多様性地域戦略に基づき、府中市の自然環境についての情報を集約し、生物多様性の大切さを知る機会の提供を行う。				

2 事業計画・評価

H29年度実績 (Do)	H29年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
自然環境調査の実施 生物多様性情報の整備委託 生物多様性パネル展	府中市の生物多様性情報の集約と前年に引続き、各小中学校の敷地ごとの植物目録を作成した。生物多様性パネル展では、普及啓発のため展示等を行うとともに、府中市の取組みや生物多様性地域戦略についてのPRを行った。	



新規・レベルアップ 継続 見直し 廃止 H29年度評価に基づく見直し (Action)

H30年度の具体的な取組 (Plan)	H30年度の方向性 (Plan)	
自然環境調査の実施 生物多様性情報の整備委託 生物多様性パネル展 生物多様性に関する講演会	市内の自然環境についての情報を集約し、生物多様性を知る機会を提供していく。生物多様性について認識の低い一般市民を対象に普及啓発のため、展示会や生物多様性に関する講演会を実施していく。	
H30年度実績 (Do)	H30年度評価 (Check)	評価内容 B 現状のまま継続
自然環境調査の実施 生物多様性情報の整備委託 生物多様性パネル展 生物多様性に関する講演会	昨年度作成した「府中市の小中学校敷地内の植物相」を基に、地域の植物種の多様性が保たれた重要な場所となっている、学校敷地内の緑地管理の参考資料として、冊子「地域の自然を活かす学校の緑づくり」を作成した。パネル展を継続開催し、生物多様性地域戦略の浸透を図ったほか、「都市の生きものの生態」「府中市に残る生物多様性ホットスポット浅間山」をテーマに2回の講演会を開催し、市民への啓発を行った。	



新規・レベルアップ 継続 見直し 廃止 H30年度評価に基づく見直し (Action)

H31年度の具体的な取組 (Plan)	H31年度の方向性 (Plan)
自然環境調査の実施 生物多様性情報の整備委託 生物多様性パネル展 生物多様性に関する講演会	市内の自然環境についての情報を集約し、生物多様性を知る機会を提供していく。生物多様性について認識の低い一般市民を対象に普及啓発のため、展示会や生物多様性に関する講演会を実施していく。また、今年度は5年間の計画期間の最終年度にあたるため、これまでの成果と課題を検証し、次期計画の策定の方向性を決定する。

令和2年度における事業の位置付け		B	現計画の最終年度にあたり、継続して情報の整備、市民への普及啓発を実施していく。取組みの見直しは次期計画の策定にあわせて実施する。
A 重点化・拡大して継続			
B 現状のまま継続	1 大幅な見直しは必要ない	3	
	2 見直しには法令等の改正が必須		
	3 見直しの必要性はあるが時期尚早		
	4 現状では見直しが不可能		
C 見直して継続	1 見直し・縮小		
	2 他事業との整理・統合		
D 休止・廃止等	1 休止		
	2 廃止		
	3 完了		

3 指標実績の推移・現状分析

指標名	基準値 (単位)	事業推移				目標値・ 目標年度	指標の分析	
		H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度			
	-	計画値	当初値	-	-	-	-	数値の比較や推移で評価することができないため、特に指標の設定は行わない。
		計画値	補正值	-	-	-	-	
		実績	実績	-	-	-	-	
	-	計画値	当初値	-	-	-	-	
		計画値	補正值	-	-	-	-	
		実績	実績	-	-	-	-	

※ 当初値：指標設定当初の計画値、補正值：現時点での適正な計画値（当初値から補正した値）

現状分析	3	2	1	
国や都、民間ではなく、市が主体的に実施すべき事業である。	実施しなければならない	実施すべきである	実施する必要は低い	2
実施に当たって民間活力等を活用する余地がある事業である。	余地がない	余地がある	多くの余地がある	2
類似事業はなく、統合など再構築した中では実施できない。	実施不可能である	検討の余地がある	実施可能である	2
事業実施の成果を何かしらの形で把握している。	把握している	把握不可能である	把握していない	3
受益者に対して求めている負担は適正である。	適正である	見直しの余地がある	適正ではない	3
多摩地域の他市と比較して充実している事業である。	他市より充実している	他市と同程度	他市の方が充実している	3

4 事業費・人件費等の推移

(単位：円、人)

	H29年度	H30年度	H31年度	R 2年度	R 3年度	R 4年度
(事業費)						
当初予算額	623,000	592,000	858,000	0	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
一般財源	623,000	592,000	858,000	0	0	0
予算現額	623,000	592,000	0	0	0	0
決算額	622,080	574,170	0	0	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
一般財源	622,080	574,170	0	0	0	0
執行率	99.9%	97.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
(人件費)						
職員数	1.11	1.16				
職員人件費	8,526,603	9,115,389				
嘱託員数	0	0				
嘱託員人件費	0	0				
(間接経費)						
間接経費	80,633	77,377				
総コスト	9,229,316	9,766,936	0	0	0	0

5 これまでの取組及び今後の展開

これまでの主な取組と成果
生物多様性の主流化を図るため、生物多様性に関するパネル展や市民を対象とした講演会を開催し、生物多様性の普及啓発に取り組んだ。また東京農工大学に業務委託を締結し、生物多様性情報の集約と公開に向けた整備を行った。
今後の課題・展開（未達成の課題・具体的な方策等）
平成27年度から5年間の計画期間が平成31年度をもって終了するが、市民世論調査において「生物多様性」という言葉を知っていると回答した割合は、平成29年度が33.2%、平成30年度が33.6%となっており、絶対的な認知度の低さと同時に、年度間の認知度に大きな変化はなく、普及啓発の取組について明確な成果が得られているとは言えない。次期計画の策定に当たっては、生物多様性情報の整備を一層進めると同時に、これまで集積してきた市内の生物多様性情報を活用し、認知度の向上につながる取組を検討する必要がある。

6 構成事業一覧

(単位：円)

No.	会計	款	項	目	事業 コード	予算事業名	H30年度		H31年度 当初予算額
							当初予算額	決算額	
1	01	40	15	25	1117600	生物多様性地域戦略推進事業費	592,000	574,170	858,000
2									
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									
合 計							592,000	574,170	858,000